

BCAO関西支部 令和4年9月度（第172回）勉強会 議事録

1. 日時：9月21日（水）18:50～20:30
2. 場所：Zoomにてのオンライン会議（司会：飯田 書記：徳山）
3. 出席：飯田、鷲山、萩原、梅田、中村、伊藤、湯地、野原、上辻、
寺岡、別役、徳山（計12名）

4. 勉強会：発表内容

- (1) テーマ：大学のBCP策定について
- (2) 講師：学校法人 常翔学園 別役 慎介氏
- (3) 内容：以下のとおり

①講師、学園紹介

②学校を取り巻く状況

・進学率は向上しているが、少子高齢化の影響で年々、学生数が減っている。

③学校の現状

・大学を取り巻く社会環境の変化により、BCの必要性が高まっていると認識しているが、日常業務の増加とマンパワー不足などから、危機管理に関する意識向上、訓練、計画策定などへの対応が遅れている。

④学校BCP促進につながる意見

・学校は重要業務や経営資源が他の組織と比較して限定的との認識から、結果事象から見たBCP策定の検討、策定したBCPに基づく訓練の実施、簡便な手順書と継続的なアップデートがBCP促進に有効なのではないかと考える。

●質疑応答ほか

Q.募集定員はどうやって決めるのか？（梅田さん）

A.学校がマーケティングや人気、ニーズ調査をして募集定員を決める。しかし、文部科学省に申請して認めてもらう形。多く募集したいが、未充足になる可能性があり、その場合は補助金が減ってしまう。大学4年の間、ずっと補助金が少ない状況になるため、無駄な募集をする訳にはいかない。（別役さん）

Q.定員割れをしないような取組みは行っているのか？（伊藤さん）

A.トップが定員充足率の動きを注視し、必要に応じた措置を講じている（別役さん）

⑥ワークショップ（災害時の学生帰宅について）

【A班】

・帰宅判断するための情報が必要。どこからどんな情報を入手するか？は事前に検討すべき。16:30なので早く判断すべき。

・学生を上手くコントロールしたり、行動を把握することは職員だけでは困難。

○学生の自主性に任せて帰宅者は帰宅を認める場合、以下の課題がある。

- ・帰宅しない人が多い場合に、備蓄品をどのように配布するか？どれだけの量を配布するか。
- ・帰宅ルートの申請と取りまとめをどうするか。帰宅完了報告をどう受けるか？
- ・安全のため帰宅ルートが同じ人たちが集団行動をとってもらおう。帰宅者には備蓄品を配布する。女性の帰宅は注意。
- 安全を考慮し、全ての学生を構内で待機させる場合、以下の課題がある。
 - ・備蓄品の配布方法と配布量。
 - ・どうしても帰りたい人への対応。（マップ提供、備蓄品提供）
 - ・勝手に帰ってしまう人の安否確認をどうするか？
 - ・3日間は待機が求められているが、備蓄品は確保されているか？
- 10kmを超える人は原則帰宅困難者とする場合、以下の課題がある。
 - ・備蓄品の量は、学生＋教職員3日分ではなく、10kmを超える人＋対策本部メンバー＋αにすることができる。
 - ・橋や狭い道などの危険個所を記載したマップの提供。
 - ・学校側がどこまで学生の安全確認をしたか？が後でわかるようなエビデンスを残しておく必要はありそう。

【B班】

- 学生の自主性に任せて帰宅者は帰宅を認める場合、以下の課題がある。
 - ・無事に帰宅できたかを確認できない。
- 安全を考慮し、全ての学生を構内で待機させる場合、以下の課題がある。
 - ・8000人のうち、何人が学校に来ているのかをどう把握するか？
 - ・備蓄量（1日分）では全員残すのは困難か？
- 徒歩通学は帰宅を認める等、各人の状況で判断させる場合、以下の課題がある。
 - ・状況を正しく判断できるか？
- そのほか、以下の課題がある。
 - ・一般住民も避難してくるため、学生がサポートするなどの対応が必要か？
 - ・近い学生は帰宅させる。帰宅者はリスト化し、帰宅後連絡させる。
 - ・交通状況は学校側が確認し、学生に共有し、帰宅させる。
 - ・校庭などに避難、大学内に取り残された学生がいないかの確認が必要
 - ・一日は安全な空間に待機させる。
 - ・学校の出欠確認方法は？集合時点で確認する。取り残された学生も確認しにいかないと分からない。確認方法を決めておく。
 - ・広域避難場所として指定されている場合がある。
 - ・学生はお客様/従業員の両面がある、職員の対応が重要

以上